

20/3/31 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第30回）

名古屋市民オンブズマンによるメモ

傍聴 14人くらい

14:00

堀田：始める 保存整備室長

松雄局長：年度末ギリギリ

コロナ影響の中会議 深く感謝

展示収蔵施設毀損

国民の財産を毀損 国民の皆さんに深くお詫び申し上げます。

私をトップに調査委員会

石列調査、修復 有識者や文化庁

ご指導よろしく

部会の関係性

新たな工程の素案

新たな工程 竣工時期を確定するのではなく、

実現可能な工程か、考え方に誤りがないか

まず適切な保存を図ったうえで

堀田：出席者紹介

議事に入るので写真ビデオ撮影はこれまで

座長に任せる

瀬口：資料に説明いただいてから

関係性の整理について事務局から

堀田：資料1-1, 2, 3

右側が今後の改善案

- ・ 今後は名古屋市に全体整備検討会議を付議し、
専門のことは再付議
各部会で詳細な検討を行う
- ・ 埋蔵文化財
有識者の助言を得る

埋蔵文化財に精通しているメンバーがいる

御深井丸も検討

基本的に石垣部会に聞きたい

他の部会との関連性

埋蔵文化財

・複数の部会に関連する検討事項の取り扱い

それぞれの部会を調整するために「調整会議」

事前に幅広く意見聴取する

関係する部会座長と相談の上市長が招集

非公開で開催し、議事進行は市が行う

瀬口：ご意見を

赤羽：おたずね

4つ部会 構成員の人数は何人か

堀田：建造物部会 5名

石垣部会 5名

庭園部会 4名

天守閣部会 7名

赤羽：石垣部会は1名地盤工学が入った

埋蔵文化財の課題が全般に及ぶ

埋蔵文化財プロパーは2名くらい

いろいろ論議 人数が足りない

増員 若くて実力がある人を

文献の人 石垣・埋蔵文化財部会に加えてほしい

現在整備検討会議 全員ご出席

所属する部会はどうなっているか

堀田：瀬口 天守閣

丸山 庭園

赤羽 石垣

小濱 建造物

高瀬 なし

麓 建造物・天守閣

三浦 天守閣

赤羽：全体 要件をしっかり決めたほうがよい

部会員のバランスを考えて

もう一点 1-3 今後

3つ目 「調査研究に関すること」を加えてほしい

センターが設置されたが、実質的に動くことを担保されていない

全体検討会議の中で論議すべき

例えば、古文書 文献類 美術工芸 保存科学

今後の調査 全体整備検討会議で議論すべき

堀田：石垣部会 埋蔵文化財専門の先生、文献の先生 今後検討

全体についてもよりよい形になっていくように

佐治：調査についても、全体整備検討会議にしかるべき時期に諮りたい

瀬口：ほかにないか

2つ目 毀損について

市長のコメント

14：19

佐治：市長コメント 3月27日

竣工時期を確定するものではない

記者会見で発言した

瀬口：ありがとう

堀田：中間案を使って説明

国民の貴重な遺産を毀損 深くお詫びする

中間案を取りまとめた

日時 3月2日午後1時半-2時半

外構工事 六番御蔵の石列

平成24年12月 南側で試掘 石列を検出

全体整備検討会議に報告

平成29年3月 工事設計

平成 30 年 12 月 全体整備検討会議に報告

近世遺物

令和元年 8 月 設計修正

施工に入った段階で、遺構について具体的な資料提供等を行わず

7 ページ

学芸員 工事現場の別の現場にいた

9 ページ それぞれの段階ごとに表にまとめた

15 ページ

試掘したが、遺構の状況確認には十分ではなかった

十分な情報共有できず

掘削を行わない工事を行うべきところ、掘削し、深さも適切ではない

学芸員の立ち合い 申請書に「立ち合い」明記のところだけ

誤った認識だった

立ち合い明記のみ立ち会っていた

組織的に齟齬を解決することができなかった

週間の工程表 受け取っていた

具体的な工事内容 いつどこで工事は不明

立ち合い依頼されていなかった場所

掘削 誰も把握していなかった

掘削の方法 発注担当から「人力で」なく

施工業者は重機で

有識者に諮らなかった チェックもなかった

大きく 5 つにまとめた 16 - 17

- ・ 史跡を保存する 共有仕組みがなかった 個人で判断
- ・ 整備部門、調査部門の意思疎通がうまくできず
教育委員会との分担も不明確
- ・ チェック機能がうまく働かなかった
- ・ 学芸員の立ち合い確認できなかった
- ・ 認識の徹底、知識・経験の向上が行われてこなかった

18 ページ以降 再発防止策

特別史跡の意味を確認

年度当初に研修を行う

組織間の意思疎通の役割分担の明確化

現状変更許可 写真・動画を撮る

学芸員の立ち合い 現場にいる調査研究センター学芸員

節目は教育委員会学芸員

工程 全員が共有

現状変更許可申請提出時のチェック体制の強化

検討会議を開催してチェックする

有識者会議によるチェック機能の発揮

学芸員による確実な立ち合いの実施

今後継続的に取り組む対策

外部監査制度の導入

文化庁、愛知県、有識者等

毀損状態と今後の修復方針

石列 66 個外された

外された石と空間がおおむね一致する

修復方法については今後石垣・埋蔵文化財部会で審議してほしい

多角的チェック機能が働いていなかった

再発防止対策を周知徹底したい

事故現場検証した

ほかにも問題がないか検証したい

14 : 45

瀬口：ありがとう 意見は

高瀬：平面表示しよう 原因

発掘調査が十分行われていない

遺構が残っていなければ絵図に頼る

→行われていなかった

原因のところ その考え方 遺構を確認して

確認できなければ次の 2 次資料

村木：9 ページ

平成 30 年度 試掘が十分ではなかった

わかっていたが組織として共有されていなかった

赤羽：16 ページ

一番大事なものは 5 番 認識の徹底 甘い

特別史跡を扱っている認識があまい

共有・連携

チェック機能

→そうではなく、整備事業が先行して、裏付けする調査研究が

おろそかになっていると言わざるを得ない

平成 24 年試掘に立ち会った

戦前戦後 使われている 荒れていた感じ

悔い

整備事業を行う前提の調査研究がおろそかになったのが原因

- ・国民から任されているという意識
- ・調査研究がおろそかになっていた

丸山：内容を読んだ

議論は難しい

フローチャート 調査・発掘

各部会

設計

戻して調査と齟齬がないか

今回現場行った 事前のオペレーターへの注意事項

事業に対するフローチャート 民間ならやっている

発掘、調査研究 各部会で検討を

この文書 わかりにくい

次の方に伝える どう伝えるか

堀田：提案フローチャート

具体的に守るべきマニュアル・ガイドライン

誰でも見たらわかるものを作りたい

三浦：2 ページ 状況

現地を見た 東石→正方形に加工した礎石

間知石

19 世紀の建物であることは間違いない

いい加減なものではだめ

今回掘ったところ土塀+礎石 重なっている

天保の蔵

非常に驚いたこと

国の遺構 発掘調査をして、出てきた礎石等はなるべく維持して表面表示

一間感覚 それらしい石

地下に埋まっている石を彷彿するもの

間は間知石

平面表示の方法を普通は検討委員会で検討すべき

名古屋城はやっていない

表示の仕方自体も委員会で諮って

25 ページ おおむね数が足りている

礎石を抜き取った

発掘調査 抜き取った跡がわかる

間知石 できる学芸員を

戻せるのか戻せないか

どうしても戻らなければ検討を

考古学専門家+建築家

石垣検討部会だけでは正しくない

考古学+建築学を一緒に

多分元に戻るだろう

堀田：貴重な提案

現状変更許可申請の前に有識者会議に諮りたい

修復 有識者の意見を聞く

- ・石垣埋蔵物部会に人を補強する
- ・調整会議で諮る

瀬口：ほかに

麓：事故が起きてから原因対策

この中で一番直接的にかかわるのは、工事に学芸員が立ち会っていなかった

立ち会っていれば対処できた

できなかったのが直接的

学芸員が立ち会おうと書かれているが、学芸員の仕事量、作業量が多い

今の人たちが怠けていたわけではない

作業量が及ばなかったと思う

今後は増員

十分特別史跡、文化財に現状変更 必ず立ち合いを

堀田：すべての工事に学芸員を立ち会う
実効性を担保できるようにしたい

瀬口：ほかには

小濱：専門ではないが、現場を見た 事情を聴いた
工事の設計図が間違っていたのではないか
業者は設計図通りに工事をしていた
遺構の誤認 設計が間違った
遺構の調査 きちんとすれば間違わなかったかも
設計 いろんな指摘ができる
 たくさんの目で見てもおかしいと指摘
遺構の確認が不十分だった
工事は学芸員が工事の現場を見て
掘削も発掘調査みたいなもの

堀田：設計上の誤りがあった
工事担当だけでなく、設計各段階 学芸員とチェックしたい

赤羽：3 ページ
令和元年 11 月現状変更許可
現場を見て、六番御蔵も大変
表面表示 五番御蔵も同じ課題を抱えている
コンクリートで表示されている
五番御蔵は全く触れていない

堀田：五番御蔵 コンクリート基礎を打った
掘削した際どの程度の影響があったかなかったか確認する

赤羽：様々な工事が行われている
全体的に発掘調査を
遺構の全体像を明らかにしないと怖い
戦前・戦後 活用されて荒れている
そういうところをきちんと調査して

整備に先立つ調査研究を
西の丸を整備するなら原点に戻って

瀬口：1時間たったので休憩しないと

高瀬：五番御蔵 平面位置たぶん間違っている
どうするか再検討してはどうか

堀田：五番御蔵を含めて再検討したい
平澤調査官に意見を

平澤：的確な指摘

市長コメント 報告を受けた
かなり複雑に記載されていた
もう少し整理してほしい
すべて構成員が出て、は難しい
再発防止策 具体的に示して実効性がある仕組みを
いろいろかなり万全を期す いろいろ書いてある
実効性を担保しないと目的を達成しない
主な目的 遺構の保存
確認手続きの過剰な充実ではない
再認識してほしい 目的は遺構の保存
いくつか重要なご指摘
麓 エラーは必ず起きる
エラーが起きたときに被害を最小限にする
・設計が適切でなかった
・バックホウで石が当たって掘り返した
えらいことが起こった→作業がストップする
今回はそのまま作業 被害拡大
一連のこと 文化庁でも重く見ている
引き続き検討していただいて
三浦 現場の所見 あとで見せていただこうと思っている
きちんとした手順 一定程度の修復は可能だろう
今回の事案をきっかけに、今後の検討の基礎 作って
場内様々重要文化財の展示物もある
確実に将来に向かって行われる体制を

瀬口：これをふまえて、20年30年後の史跡保存を

全体整備

西の丸 石垣埋蔵文化財が所管する おろして議論してほしい

異論はないよう

10分間休憩

15：14

15：24

瀬口：再開

新たな工程の素案

蜂矢：説明する

実現可能な工程を竹中、文化庁と協議

期間が不確定

関係者からの意見を積み上げた結果

これまで検討してきた木造復元が可能か

考えが誤りがないか検討

外構工事 遺構を毀損した重大事案

先生方から厳しい意見を賜っている

まずはその対処に全力を挙げたい

重大さにかんがみ、再発防止策の理解ができるまで

木造復元はスタート位置にたてない

一体で現状変更許可を取得するイメージ

解体 昨年4月現状変更許可申請→指摘事項+追加情報の提出

発掘調査 現状変更許可取得済み

来年度以降早い段階で御深井丸について現状変更許可をとって発掘したい

追加情報として提出したい

文化庁より、「一体で審議されるべき」復元計画について

基礎構造について検討したい

基本構想 精査補強

穴倉石垣の試掘調査

遺構が残っていることを前提に

根石など遺構を確実に保護する計画

保存修復のための基礎データ
追加情報として文化庁に提出したい
文化審議会で理解できれば復元検討委員会に諮れる
その後外部エレベーター解体、穴蔵土間撤去
基礎構造の変更

3-2 「新たな工程」の素案

時系列配置

- ・実現可能な手順、工程
- ・遺構の調査保全は全力で
- ・一体として現状変更許可取得
- ・復元工事の期間は基本的に変更しない
- ・工程見直しについては今年度中に全体整備検討会議に諮り、
石垣、天守閣部会に諮った後全体に諮り確定

文化審議会に追加情報を出せば、2年半で復元検討委員会にかける

瀬口：ご意見を

特にないか

基本的に今までと同じですよ

どこか変わったところを説明を

蜂矢：竣工時期をきめるのではなく、工程を積み上げる

ご意見をもとに、必要な期間 工程の素案

瀬口：ご意見は

赤羽：基本的な方針

「実現可能な手順、工程」

バリアフリーの問題、史実に忠実 エレベーター

消防法、建築基準法

現代の基準にあうべき

法的な取り組み こういうことに入らないと考えているのか

全体整備の会議にはなじまないのか

蜂矢：当然ながら木造復元する際、地震安全性、火災安全性

復元検討委員会に示す必要がある

バリアフリー 復元と並行する形で新技术を公募する

バリアフリーをクリアしたい

今後公募する中で昇降する技術が確定したら、全体整備検討会議で諮りたい

瀬口：ほかにはよろしいか

三浦：資料3-1

穴蔵土間撤去

今の床？

蜂矢：現在は穴蔵石垣より1.5メートル離れている

先行して解体しても、構造的に影響がない

根石部分を発掘調査したい

三浦：床ではない？

蜂矢：穴蔵石垣をふさぐコンクリートの床

三浦：地下階の床をはがす

高瀬：石垣 追加調査

中身はどういうことか

村木：天守台の「石垣カルテ」詳細調査を見直している

評価を今年度やり直した

そこの石材状況 構造上の指摘をいただいた

追加調査 北側ハラミだし

裏側を調べて

レーダー探査 もう一度来年度やりたい

過去縦方向 今後横方向にしたい

瀬口：ほかには

小濱：工程表 ゆったりしているなあ

破線部分 いくらでもできそう

2028年まで 本当にかかるのか
見通しを聞きたい

蜂矢：復元検討委員会 スタート位置に立ててない
石垣調査をすれば、点線が固まってくる
今後の進み方によってさまざまに変わってくる
いろいろ決まってきた中で全体に諮りたい

瀬口：よろしいか
とくになければこの部分については終わりたい
石垣部会、天守閣部会について諮ったのち、
全体整備検討会議に
全体を通してなにか

丸山：資料1-3
二の丸庭園「等」
植栽が関係する
メタセコイヤ切ったり
はっきり書いたほうがよいのでは
どういうところを示しているのか

堀田：庭園「等」 茶庭等
植栽も
実情に合う形で修正したい

丸山：石垣の上の植栽
樹木、草、
なかなか進まない
ツタで木が枯れる
どこでやってもらえるのか
全体整備検討会議で樹木について書いては

堀田：修正のほう検討したい

瀬口：ほかに
文化庁

平澤：様々なお検討いただいた

当たり前のこと しかるべきことを確認

進め方についても、全体会議 新年度からの構成

お認めいただいたと思う

継続的に検討を

瀬口：事務局に

堀田：毀損事故について最終案にすべく修正したい

ご指導ご助言を

以上で終わる

ありがとう

15:50

村木：全体整備検討会議は会見はしない

名古屋市もしない

森本 本日までには公募はできていない

全体の状況が滞っているため、公募開始がいつになるかわからない

市議会委員会で「今年度中」とは言ったが